



CloudSystemテンプレート1st-Model オートスケーリングWebシステム 導入手順書

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」、「CloudSystemテンプレート1st-Model
オートスケーリングWebシステム」を「CSテンプレート」として記載します。

第1.0版（ITAバージョン1.4.1版）

Exastro developer

目次

1. はじめに

1. 本資料について／導入手順フロー
2. CSテンプレート導入イメージ
3. ITAユーザー／IAMユーザーの役割と運用方法

2. 導入準備

1. 導入準備

3. 導入手順

1. CSテンプレート導入ファイルダウンロード
2. CSテンプレート導入ファイルインポート
3. 機器一覧_登録ホストのログイン情報変更
4. プロキシ情報の登録
5. ITAユーザーのパスワード変更
6. システム管理者のAWSアカウント情報登録
7. AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録
8. インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録
9. オートスケーल用パラメータの登録

4. 補足

1. システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止と復活
2. Teams連携通知の登録
3. メニューグループ／メニュー概要
4. Symphonyの参照パラメータ

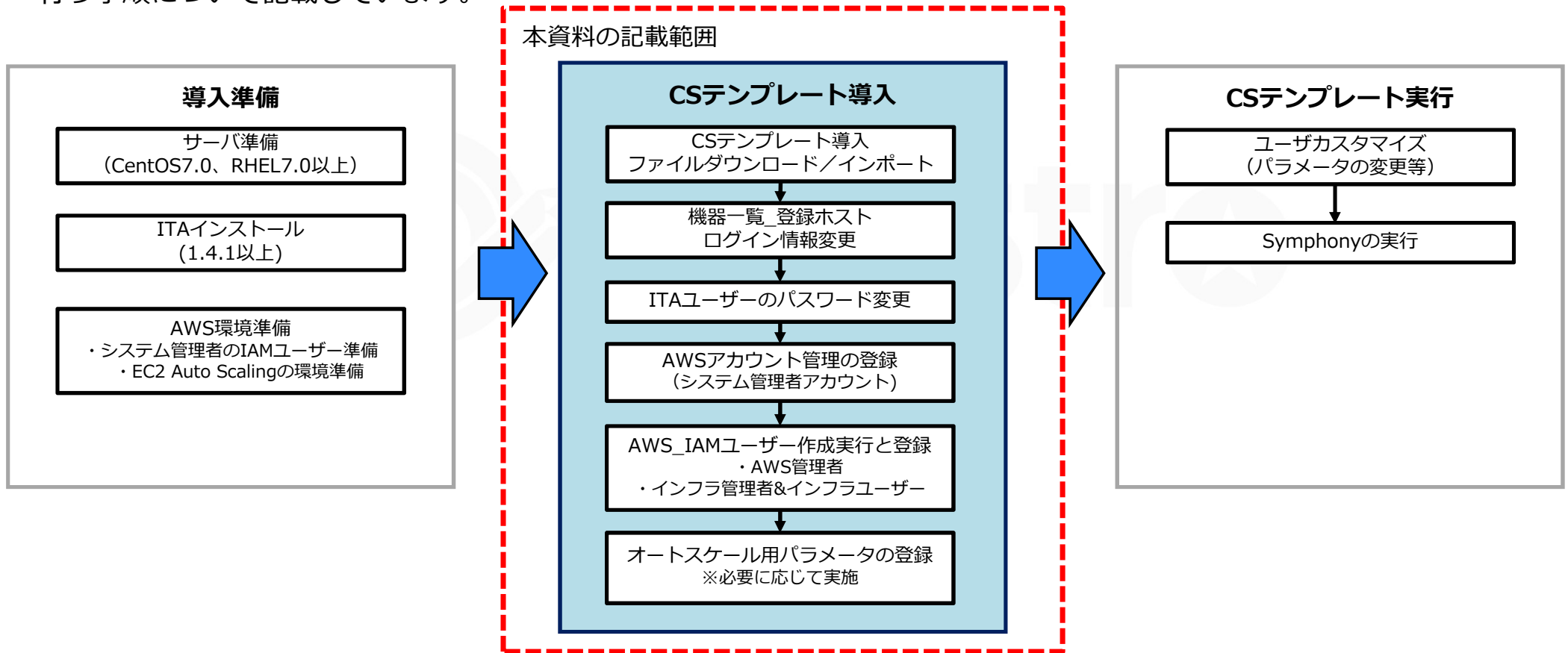
1. はじめに



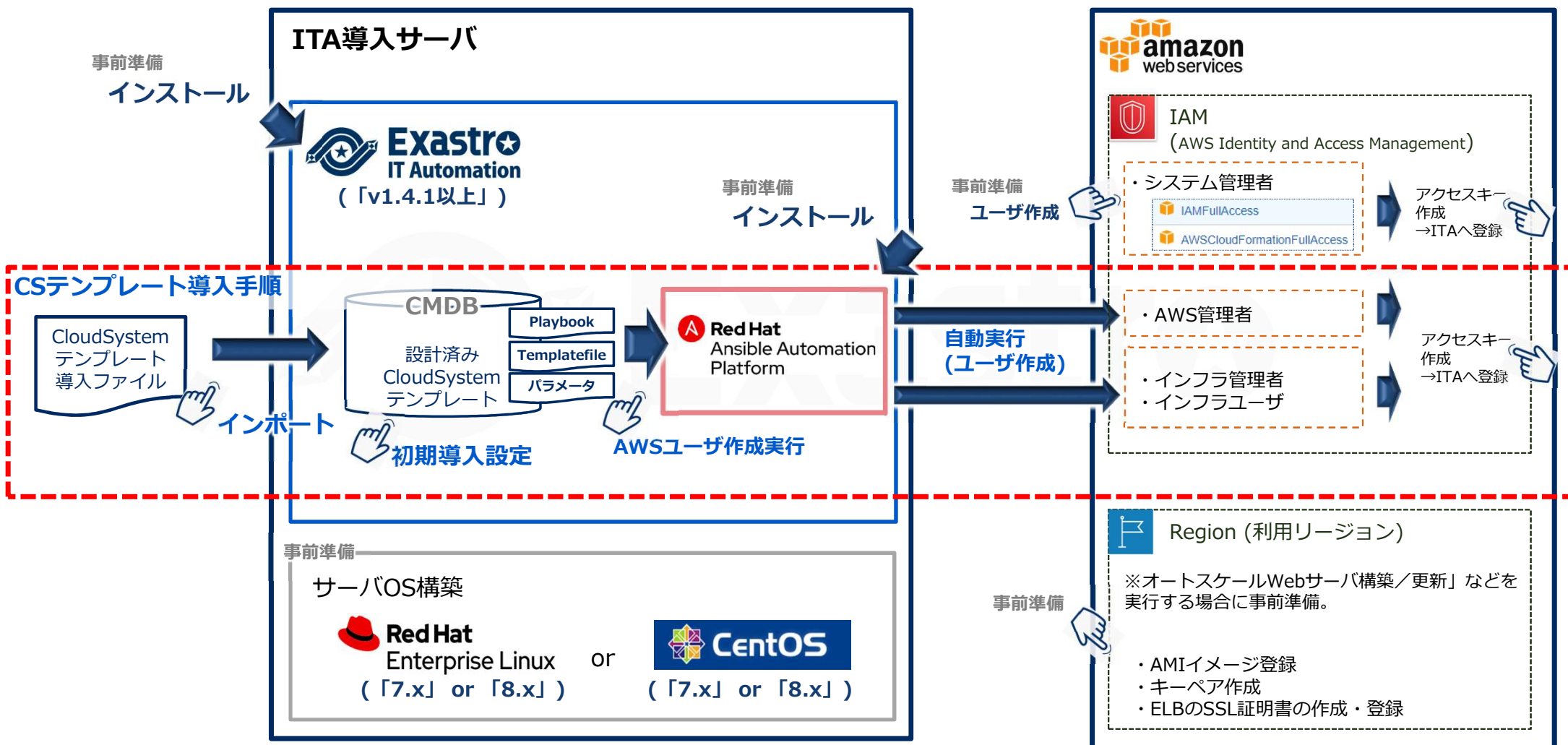
1.1 本資料について／導入手順フロー

本資料について

- 本資料は、ITAサーバにCSテンプレート導入ファイル(パッケージファイル)のインポート、及び、初期設定を行う手順について記載しています。



1.2 CSテンプレート導入イメージ



1.3 ITAユーザー／IAMユーザーの役割と運用方法

ITAユーザー／IAMユーザーの役割

CSテンプレートでは、運用業務によりアクセス権限や操作権限※2を、ロールごとに制限する運用をポリシーとしており、そのポリシーに従いIAMユーザを作成しての運用を推奨しています。

※1 システム管理者のみで運用することも可能です。

※2 下位権限のユーザのSymphonyの実行を制限する場合は、補足4.1を参照ください。

ITA		AWS	権限概要	想定業務
ユーザー名(初期値)	ログインID(初期値)	IAMユーザー名(初期値)		
システム管理者	administrator	(事前準備)	・ ITAの操作全般	・ kymファイルをインポート/エクスポート ・ ITA初回セットアップ ・ AWS管理者を作成する ・ ITA全般に関する設定を変更
AWS管理者	aws-admin	cloud-system-aws-admin パラメータにより変更可能	・ IAMユーザーの構築/更新/削除 ・ IAMユーザーに関するメニューの操作権限	・ インフラ管理者・インフラユーザーを作成する ・ 必要に応じてIAMユーザーのパラメータを変更 ・ 不要なIAMユーザーを削除
インフラ管理者	infra-admin	cloud-system-infra-admin パラメータにより変更可能	・ 対象システムの構築/更新/削除 ・ 対象システムに関するメニューの操作権限	・ 対象システムのパラメータを管理する ・ 対象システムの構築/削除を実行する ・ 必要に応じて対象システムを更新する ・ ITA登録ファイル(プレイブック、テンプレートファイル等)を追加/変更する ・ テンプレートファイルを新規追加した際にパラメータメニューを作成する
インフラユーザー	infra-user	cloud-system-infra-user パラメータにより変更可能	・ 対象システムのコンテンツを更新 ・ 必要なメニューの操作権限	・ AWSマネジメントコンソールでシステムをモニタリングする ・ コンテンツ更新に関するパラメータを管理する ・ コンテンツ更新を実行する ・ オペレーションの追加はしない
CloudSystem テンプレートAPI	cloud-system- template-api	無し	・ 一部のメニュー操作権限	・ Movement「機器一覧同期」「機器一覧初期化」を実行する

2. 導入準備



2.1 導入準備 (1/3)

●サーバ準備

ITAをインストールするサーバを用意します、サーバ動作要件は以下のドキュメントの [4頁 システム要件] を参照ください。
また本サーバはAWSと接続できる環境を用意してください。（http/https/ssh通信）

[ITA システム構成/環境構築ガイド 基本編](#)

●ITAインストール

- ・ITAバージョンは1.4.1以上のものをインストールしてください。
- ・インストール時のアンサーファイル（ita_answers.txt）では、以下の機能のインストール指定をしてください。

```
ita_base:yes
material:no
createparam:yes
hostgroup:yes ← デフォルト「no」を「yes」に修正してインストール実行
ansible_driver:yes
cobbler_driver:no
openstack_driver:no
dsc_driver:no
```

- ・インストール手順は以下ドキュメントを参照ください。

[ITAオンラインインストール手順](#)

- ・プロキシ環境の場合、ITAサーバにnc（netcat）コマンドをインストールしてください。
（AWS上のサーバにプロキシサーバ経由でSSH接続する際のコマンドオプションに必要）
「インストールコマンド : yum install -y nc」

2.1 導入準備 (2/3)

● AWS環境準備

①システム管理者のIAMユーザー準備

以下のIAMポリシーをアタッチしたIAMユーザーの「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を用意してください。

- IAMFullAccess
- AWSCloudFormationFullAccess

※システム管理者のみで運用する場合は、上記に加え以下のポリシーも必要です。

- ec2:DescribeInstances
- elasticloadbalancing:Describe*
- s3:*

【参考】IAMユーザーアクセスキー／シークレットキーの作成手順概要（AWSマネジメントコンソールにて実施）

1. IAM > ユーザー > 「IAMユーザー準備」で用意したユーザー名を押下
2. 認証情報 > アクセスキーを作成を押下
3. アクセスキーIDとシークレットアクセスキーが表示されるのでそれを取得する



2.1 導入準備 (3/3)

②EC2 Auto Scaling利用の環境準備

CSテンプレートの「オートスケーलWebサーバ構築／更新」などを実行する場合、
EC2 Auto Scaling機能にて自動構築するEC2インスタンス向けに利用するリージョン **(※1)** ごとに、
以下の環境・設定情報を用意してください。

【参考】環境準備／情報取得の手順概要（AWSマネジメントコンソールにて実施）

◆AMI

EC2 > イメージ > AMI に使用するAMIイメージを登録し「AMI ID」を取得。

◆キーペア **(※踏み台サーバ用とWebサーバ用に認証鍵を分ける場合は、キーペアを2つ準備します)**

EC2 > ネットワーク&セキュリティ > キーペア の「キーペアを作成」から作成し、
「キーペア (pemファイル)」と「キーペア名」を取得。

◆ELB用のSSL証明書

Certificate Manager に証明書を登録し「ARN (リソースネーム)」を取得。

**(※1) AWS環境準備時のリージョンと、ITA共通パラメータのAWSリージョン情報は、合わせる必要がありますので、
必要に応じて更新します。また環境ごとにリージョンが異なる場合はオペレーションごとにリージョンを登録します。**

現在以下のリージョンで動作確認済で、マスタ管理のAWSリージョンに初期登録されています。

- ap-northeast-1 アジアパシフィック (東京) ※サンプルのオペレーション「環境A」では、本リージョンが初期設定されています。
- ap-southeast-1 アジアパシフィック (シンガポール)
- ap-southeast-2 アジアパシフィック (シドニー)
- us-east-1 米国東部 (バージニア北部) ※サンプルのオペレーション「環境B」では、本リージョンが初期設定されています。

3 導入手順



3.1 CSテンプレート導入ファイルダウンロード

CSテンプレート導入ファイルダウンロード

- 以下URLからCSテンプレート導入ファイルをダウンロードしてください。

URL : <https://github.com/exastro-suite/Settings-CloudSystemTemplate-1st/releases>

ファイル名 : cloud-system-template-aws-ce-1.0.0-exastro-1.4.1.kym



3.2 CSテンプレート導入ファイルインポート（1/3）

以降のITAの作業は「administrator（システム管理者）」で実施してください

CSテンプレート導入ファイルインポート

- 「エクスポート/インポート」 > 「メニューインポート」 > 「ファイルを選択」
3.1でダウンロードしたファイル（cloud-system-template-aws-ce-1.0.0-exastro-1.4.1.kym）を選択して「アップロード」を押下



3.2 CSテンプレート導入ファイルインポート (2/3)

CSテンプレート導入ファイルインポート

- ファイルのアップロードが完了したらすべてのメニューを選択して、画面最下部の「インポート」を押下

インポート △閉じる

☒ すべてのメニュー **1**

☒ パラメータ管理

<input checked="" type="checkbox"/> 共通/パラメータ	<input checked="" type="checkbox"/> AWS管理者/パラメータ	<input checked="" type="checkbox"/> インフラ管理者&インフラユーザー/パラメータ	<input checked="" type="checkbox"/> AutoScale/パラメータ
<input checked="" type="checkbox"/> S3/パラメータ	<input checked="" type="checkbox"/> SNS/パラメータ	<input checked="" type="checkbox"/> CloudTrail/パラメータ	<input checked="" type="checkbox"/> Network/パラメータ
<input checked="" type="checkbox"/> SecurityGroup/パラメータ	<input checked="" type="checkbox"/> Bastion/パラメータ	<input checked="" type="checkbox"/> VPCflowlogs/パラメータ	<input checked="" type="checkbox"/> CloudWatchAlarm/パラメータ
<input checked="" type="checkbox"/> GuardDuty/パラメータ			

☒ 構築/更新シナリオ

<input checked="" type="checkbox"/> オートスケーリングWebサーバ	<input checked="" type="checkbox"/> GuardDuty	<input checked="" type="checkbox"/> AWS管理者	<input checked="" type="checkbox"/> インフラ管理者&インフラユーザー
---	---	--	--

☒ 削除シナリオ

<input checked="" type="checkbox"/> オートスケーリングWebサーバ	<input checked="" type="checkbox"/> GuardDuty	<input checked="" type="checkbox"/> AWS管理者	<input checked="" type="checkbox"/> インフラ管理者&インフラユーザー
---	---	--	--

☒ ドキュメント管理

2

<input checked="" type="checkbox"/> 代入値自動登録設定	<input checked="" type="checkbox"/> 作業対象ホスト	<input checked="" type="checkbox"/> 代入値管理	<input checked="" type="checkbox"/> メンバー変数管理
<input checked="" type="checkbox"/> 変数具体値管理	<input checked="" type="checkbox"/> 多段変数メンバー管理	<input checked="" type="checkbox"/> 多段変数配列組合せ管理	<input checked="" type="checkbox"/> 読替変数一覧

☒ インポート **2** インポート(廃止を避く)

3.2 CSテンプレート導入ファイルインポート (3/3)

CSテンプレート導入ファイルインポート

- 「エクスポート/インポート」 > 「エクスポート/インポート管理」 > 「フィルタ」を押下し、インポートが完了しているか確認。

一覧						
実行No.	ステータス	処理種別	インポート種別	ファイル名	最終更新日時	最終更新者
4	完了	インポート	通常	4_cloud-system-template-aws-ee-1.0.0-exastro-1.4.1.kym	2020/07/14 14:12:04	データポータルディプロシージャ

- インポートが完了している場合、メインメニューは以下のように表示されます。



3.3 機器一覧_登録ホストのログイン情報変更

機器一覧_登録ホストのパスワード変更

- 「基本コンソール」 > 「機器一覧」 > 「フィルタ」 > 「更新」

必要なログイン情報を入力して「更新」を押下

※ログイン情報につきましてはSSH接続可能かつ、Ansible playbookの動作可能なサーバ/ユーザIDを指定します。
ご利用環境に適した設定をご入力下さい

一覧/更新

管理システム	Host名	IPアドレス	MACアドレス	ネットワークデバイス名	ログインユーザID	ログインパスワード	ssh認証鍵ファイル	認証方式
SV	exastro-it-sv001	127.0.0.1			root		アップロード	パスワード認証

※必須項目です。

戻る 更新

POINT

パスワード認証の場合

ログインユーザID : SSH接続かつAnsible playbookを実行可能なユーザID

ログインパスワード : 上記で入力したユーザIDのパスワードを入力

SSH鍵認証をご利用の場合、[利用手順マニュアル 基本コンソール](#)の
P10 機器一覧の項目をご参照ください。

3.4 プロキシ情報の登録

ITA導入サーバーがAWSとの接続にプロキシサーバーを使用する環境である場合、本手順を実行してください。

■ プロキシ情報の登録

- 「Ansible共通」 > 「グローバル変数管理」 > 「フィルタ」 > 「更新」
「具体値」にプロキシサーバーの情報を入力して「更新」を押下

一覧/更新

項目	グローバル変数名*	具体値*	変数名説明	備考	日時	最終更新者
	GBL_PROXY	http://xxxxxx.co.jp	プロキシ用変数	外部アクセスで使用するプロキシを入力してください。 [入力書式] [ホスト]:[ポート番号] (例)http://xxxxxx.co.jp:8080	自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

戻る 更新

3.5 ITAユーザーのパスワード変更（1/4）

ITA管理者ユーザのパスワード変更

- 「管理コンソール」 > 「ユーザ管理」 > ログインID「administrator」の「更新」を押下
「ログインPW」に任意のパスワードを入力して「更新」を押下
同様の手順で「aws-admin」「infra-admin」「infra-user」のパスワードも変更してください。
※デフォルトパスワードは全て「password」となっています。

The screenshot shows a web interface for managing ITA users. At the top, there is a blue header with the text "一覧/更新" (List/Update). Below this is a table with four columns: "ユーザID" (User ID), "ログインID*" (Login ID*), "ログインPW" (Login Password), and "ユーザ名*" (User Name*). The first row of the table contains the values "1", "administrator", an empty password field, and "システム管理者" (System Administrator). A red box highlights the "ログインPW" column, and a red circle with the number "1" points to it. Below the table, there is a note: "※*は必須項目です。" (※* is a required item). At the bottom, there are two orange buttons: "戻る" (Back) and "更新" (Update). A red box highlights the "更新" button, and a red circle with the number "2" points to it.

ユーザID	ログインID*	ログインPW	ユーザ名*
1	administrator		システム管理者

※*は必須項目です。

戻る 更新

3.5 ITAユーザーのパスワード変更（2/4）

API連携用ユーザのパスワード変更

- 「管理コンソール」 > 「ユーザ管理」 > ログインID「cloud-system-template-api」の「更新」を押下
「ログインPW」に任意のパスワードを入力して「更新」を押下
- ※ 「cloud-ststem-template-api」はAWSに作成されたインスタンスをITA 機器一覧へ登録する際に利用されるユーザです

The screenshot shows a web interface for managing users. At the top, there is a tab labeled '一覧/更新'. Below it is a table with four columns: 'ユーザID', 'ログインID*', 'ログインPW', and 'ユーザ名*'. The first row of the table contains the values '3', 'cloud-system-temp', a password input field, and 'CloudSystemテンプレ'. A red box highlights the 'ログインPW' column, and a red circle with the number '1' points to it. Below the table, there is a note: '※*は必須項目です。'. At the bottom, there are two orange buttons: '戻る' and '更新'. A red box highlights the '更新' button, and a red circle with the number '2' points to it.

ユーザID	ログインID*	ログインPW	ユーザ名*
3	cloud-system-temp	<input type="password"/>	CloudSystemテンプレ

※*は必須項目です。

[戻る](#) [更新](#)

3.5 ITAユーザーのパスワード変更 (3/4)

API連携用ユーザのパスワード変更

- 「Ansible共通」>「ファイル管理」>ファイル埋込変数「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」の「ファイル素材」を押下してファイルをダウンロード

一覧/更新					
更新	廃止	素材ID	ファイル埋込変数名	ファイル素材	備考
更新	廃止	1	CPF_STARTUP	ec2_userdata	WEBサーバの起動時設定
更新	廃止	2	CPF_SECRET_KEY_BASTION	secret_key_bas.pem	踏み台サーバの秘密鍵
更新	廃止	3	CPF_SECRET_KEY_WEB	secret_key_web.pem	WEBサーバの秘密鍵
更新	廃止	4	CPF_IMAGEFILE	super-tower.jpg	Webサーバ表示用画像
更新	廃止	5	CPF_AWS_SDK	aws_sdk.zip	AWS SDK for PHP
更新	廃止	6	CPF_DEVICE_LIST_SYNC	device_list_sync	機器一覧同期モジュール

3.5 ITAユーザーのパスワード変更 (4/4)

API連携用ユーザのパスワード変更

- ダウンロードしたファイルをテキストで開き、以下の箇所を修正
ファイル埋込変数「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」の「更新」>「ファイルを選択」
修正をしたファイルを選択して「事前アップロード」を押下し、アップロードが完了したら「更新」を押下

18行目: // API実行ユーザーのパスワード
19行目: const USER_PW = "*****";

→ ユーザ管理で[cloud-system-template-api]に
設定した任意のパスワードに変更

The screenshot shows the '一覧/更新' (List/Update) screen in the Exastro ITA. A table lists the variable 'CPF_DEVICE_LIST_SYNC' with its current value 'device_list_sync'. The 'ファイルを選択' (Select File) button is highlighted with a red circle and number 1. The '事前アップロード' (Pre-upload) button is highlighted with a red circle and number 2. Below the table, the upload status is shown: 'アップロードしました。' (Uploaded), 'ファイル名 device_list_sync', and 'サイズ23588bytes'. At the bottom, the '更新' (Update) button is highlighted with a red circle and number 3. A red arrow points from the password field in the code snippet above to the '更新' button.

変数ID	ファイル埋込変数名	ファイル
6	CPF_DEVICE_LIST_SYNC	現在アップロード中: device_list_sync

アップロード状況:
アップロードしました。
ファイル名 device_list_sync
サイズ23588bytes

※*は必須項目です。

戻る 更新

3.6 システム管理者のAWSアカウント情報登録

AWSアカウント管理_システム管理者の登録

- 「AWSアカウント管理」>「システム管理者」>「登録」>「登録開始」
「ホスト名」「オペレーション」を選択し、「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下

No	ホスト名*	オペレーション	パラメータ		
	ホスト名*	オペレーション*	アカウントID*	アクセスキー*	シークレットキー*
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

※*は必須項目です。

POINT

ホスト名 : 本ITA導入サーバのホスト名を選択
(デフォルトは" exastro-it-automation")
オペレーション : 任意のオペレーションを選択
アカウントID : AWS環境準備で用意したアカウントIDを入力
アクセスキー : AWS環境準備で用意したアクセスキーを入力
シークレットキー : AWS環境準備で用意したシークレットキーを入力

3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録（1/3）

「AWS管理者」の「ユーザー名」「初回パスワード」「グループ名」をCSテンプレートのデフォルト値から変更する場合、本手順を実行してください。

AWS管理者パラメータの登録

- 「パラメータ管理」>「AWS管理者パラメータ」>「フィルタ」>「更新」
「ホスト名」「オペレーション」「ユーザー名」「初回パスワード」「グループ名」を入力して「更新」を押下

一覧/更新

No	ホスト名*	オペレーション	パラメータ		
	ホスト名*	オペレーション*	ユーザー名*	初回パスワード*	グループ名*
1	exastro-it-automation ▼	2020/05/28 11:00_1:環境A ▼	cloud-system-temp	CStemplate2020@	cloud-system-temp

※*は必須項目です。

戻る 更新

POINT

ホスト名 : 本ITA導入サーバのホスト名を選択
(デフォルトは" exastro-it-automation")
オペレーション : 任意のオペレーションを選択
ユーザー名 : 任意のユーザ名を入力
初回パスワード : 任意のパスワードを入力
グループ名 : 任意のグループ名を入力

3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録 (2/3)

AWS管理者作成の実行

- 「基本コンソール」 > 「Symphony作業実行」
「Symphony[一覧]」の「AWS管理者（構築／更新）」を選択し、「オペレーション[一覧]」から「AWS管理者パラメータ」へ登録したオペレーションを選択して画面最下部の「実行」を押下

Symphony[一覧]

選択	SymphonyクラスID	Symphony名称
<input type="radio"/>	1	オートスケーリングWebサーバ (構築/更新)
<input type="radio"/>	2	オートスケーリングWebサーバ (EC2へPlaybook実行)
<input type="radio"/>	3	オートスケーリングWebサーバ (削除)
<input type="radio"/>	4	GuardDuty (構築/更新)
<input type="radio"/>	5	GuardDuty (削除)
<input checked="" type="radio"/>	6	AWS管理者 (構築/更新)
<input type="radio"/>	7	AWS管理者 (削除)
<input type="radio"/>	8	インフラ管理者&インフラユーザー (構築/更新)
<input type="radio"/>	9	インフラ管理者&インフラユーザー (削除)
<input type="radio"/>	11	【定期実行】機器一覧同期

①

CF実行 / AWS管理者 / 構築・更新

☐ スキップ
オペレーションID(個別指定)

Teams通知(AWS管理者)

☐ スキップ
オペレーションID(個別指定)

▲ end

③

実行

オペレーション[一覧]

選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	備考
<input type="radio"/>	1	環境A	2020/05/28 11:00 2020/06/10 10:00	リージョン: 東京		
<input type="radio"/>	4	環境B	2020/06/01 12:00 2020/06/10 10:00	リージョン: パーシニア北部		

フィルタ結果件数: 2

②

3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録（3/3）

AWSアカウント管理_AWS管理者の登録

1. 「AWS管理者パラメータ」へ登録した情報でAWSへログインし、「AWS管理者パラメータ」へ登録したユーザ名の「アクセスキー」「シークレットキー」を作成して取得

※手順については「導入準備－AWS環境準備－①システム管理者のIAMユーザー準備」を参照してください。

2. 「AWSアカウント管理」>「AWS管理者」>「登録」>「登録開始」

「ホスト名」「オペレーション」「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下

The screenshot shows a registration form titled '登録' (Registration). It contains a table with columns: No, ホスト名* (Host Name), オペレーション (Operation), アカウントID* (Account ID), アクセスキー* (Access Key), and シークレットキー* (Secret Key). The 'ホスト名' column has a dropdown menu with '自動入力' (Auto-fill) selected. The 'オペレーション' column has a dropdown menu. The 'アカウントID', 'アクセスキー', and 'シークレットキー' columns are empty text input fields. A red box labeled '1' highlights the input fields. Below the table, there is a note '※*は必須項目です。' (※* is a required item). At the bottom, there are two buttons: '戻る' (Back) and '登録' (Register). The '登録' button is highlighted with a red box and a red circle labeled '2'.

POINT

- ホスト名 : 本ITA導入サーバのホスト名を選択
(デフォルトは" exastro-it-automation")
- オペレーション : 任意のオペレーションを選択
- アカウントID : 1.で利用したAWS管理者のアカウントIDを入力
- アクセスキー : 1.で作成したAWS管理者のアクセスキーを入力
- シークレットキー : 1.で作成したAWS管理者のシークレットキーを入力

3.8 インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録（1/4）

- ・以降のITAの作業は「aws-admin（AWS管理者）」で実施してください。
- ・「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」の「ユーザー名」「初回パスワード」「グループ名」をCSテンプレートのデフォルト値から変更する場合、本手順を実行してください。

インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ登録

- 「パラメータ管理」>「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」>「フィルタ」>「更新」
「ホスト名」「オペレーション」「ユーザ名/インフラ管理者」「初回パスワード/インフラ管理者」
「グループ名/インフラ管理者」「ユーザ名/インフラユーザー」「初回パスワード/インフラユーザー」
「グループ名/インフラユーザー」を入力して「更新」を押下

No	ホスト名	オペレーション	ユーザー名/インフラ管理者	初回パスワード/インフラ管理者
1	exastro-it-automation	2020/05/28 11:00_1:環境A	cloud-system-templ	CSemplate2020@

※*は必須項目です。

戻る 更新

POINT

- ホスト名 : 本ITA導入サーバのホスト名を選択
(デフォルトは" exastro-it-automation")
- オペレーション : 任意のオペレーションを選択)
- ユーザー名/** : 任意のユーザ名を入力
- 初回パスワード/** : 任意のパスワードを入力
- グループ名/** : 任意のグループ名を入力

3.8 インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録 (2/4)

■ インフラ管理者&インフラユーザー作成の実行

- 「基本コンソール」 > 「Symphony作業実行」

「Symphony[一覧]」の「インフラ管理者&インフラユーザー（構築／更新）」を選択し、「オペレーション[一覧]」から「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」へ登録したオペレーションを選択して画面最下部の「実行」を押下

Symphony[一覧]		
選択	SymphonyクラスID	Symphony名称
<input type="radio"/>	1	オートスケールWebサーバ (構築/更新)
<input type="radio"/>	2	オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行)
<input type="radio"/>	3	オートスケールWebサーバ (削除)
<input type="radio"/>	4	GuardDuty (構築/更新)
<input type="radio"/>	5	GuardDuty (削除)
<input type="radio"/>	6	AWS管理者 (構築/更新)
<input type="radio"/>	7	AWS管理者 (削除)
<input checked="" type="radio"/>	8	インフラ管理者&インフラユーザー (構築/更新)
<input type="radio"/>	9	インフラ管理者&インフラユーザー (削除)
<input type="radio"/>	11	【定期実行】 機器一覧同期

CF実行 / インフラ管理者&インフラユーザー / 構築・更新

2 ☐ スキップ
オペレーションID(個別指定)

Teams通知(インフラ管理者&インフラユーザー)

3 ☐ スキップ
オペレーションID(個別指定)

▲ end

実行

オペレーション[一覧]						
選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	備考
<input type="radio"/>	1	環境A		2020/05/28 11:00	2020/06/10 10:00	リージョン: 東京
<input type="radio"/>	4	環境B		2020/06/01 12:00	2020/06/10 10:00	リージョン: バージニア北部

フィルタ結果件数: 2

3.8 インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録 (3/4)

■ AWSアカウント管理_インフラ管理者とインフラユーザーの登録

1. 「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」へ登録した情報でAWSへログインし、それぞれの「アクセスキー」「シークレットキー」を作成して取得
※手順については「導入準備－AWS環境準備－①システム管理者のIAMユーザー準備」を参照してください。
2. 「AWSアカウント管理」>「インフラ管理者」>「登録」>「登録開始」
「ホスト名」「オペレーション」「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下
→ 前項1で作成したインフラ管理者の「アクセスキー」「シークレットキー」を入力
3. 「AWSアカウント管理」>「インフラユーザー」>「登録」>「登録開始」
「ホスト名」「オペレーション」「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下
→ 前項1で作成したインフラユーザーの「アクセスキー」「シークレットキー」を入力

3.9 オートスケール用パラメータの登録（1/3）

- ・以降のITAの作業は「infra-admin（インフラ管理者）」で実行してください。
- ・CSテンプレートのSymphony「オートスケールWebサーバ構築／更新」などを実行する場合、本ページ以降の手順に沿ってパラメータ登録を実施してください。

AutoScaleパラメータへの登録

- 「パラメータ管理」＞「AutoScaleパラメータ」＞「フィルタ」＞「更新」
「AMI」「キーペア名／Webサーバ名」「SSL証明書」を入力して「更新」を押下

POINT

以下の項目に、「導入準備－AWS環境準備－②EC2 Auto Scaling利用の環境準備」で用意した以下の情報を入力

AMI : AMI ID
キーペア名／Webサーバ名 : キーペア名（Webサーバ用）
SSL証明書 : ELB用のSSL証明書

3.9 オートスケール用パラメータの登録 (2/3)

Bastionパラメータへの登録

- 「パラメータ管理」 > 「Bastionパラメータ」 > 「フィルタ」 > 「更新」
「KeyName」「AMI」を入力して「更新」を押下

一覧/更新

No	ホスト名	オペレーション	KeyName	InstanceType	AMI
1	exastro-it-automation	2020/05/28 11:00_1:環境A	-----	t2.micro	-----

※*は必須項目です。

戻る 更新

POINT

以下の項目に、「導入準備－AWS環境準備－②EC2 Auto Scaling利用の環境準備」で用意した以下の情報を入力
KeyName : キーペア名 (踏み台サーバ用)
AMI : AMI ID

3.9 オートスケール用パラメータの登録 (3/3)

キーペアの登録

- 「Ansible共通」 > 「ファイル管理」 > [CPF_SECRET_KEY_BASTION]の「更新」を押下
「ファイルを選択」を押下して、「導入準備－AWS環境準備－②EC2 Auto Scaling利用の環境準備」で用意した踏み台サーバー用の「キーペア（pemファイル）」を選択して「事前アップロード」を押下。
アップロードが完了したら「更新」を押下。
- 同様の手順で「CPF_SECRET_KEY_WEB」へWebサーバー用の「キーペア（pemファイル）」を登録してください。

一覧/更新

素材ID	ファイル埋込変数名*	ファイル素材*	備考
2	CPF_SECRET_KEY_BAS	<div>現在アップロードされたファイル: si-template-sydney.pem ① ファイルを選択 si-template-sydney. ② 事前アップロード アップロード状況: アップロードしました。 ファイル名 si-template-sydney.pem サイズ1670bytes</div>	踏み台サーバの秘密鍵

※*は必須項目です。

戻る 更新 ③

4. 補足

4.1 システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止と復活（1/2）

「システム管理者」「AWS管理者」で実行するSymphonyを、「インフラ管理者」「インフラユーザー」で実行させたくない場合、以下の手順を実施してください。

システム管理者 & AWS管理者のパラメータ廃止

※本項目の作業は「administrator（システム管理者）」で実施してください

- 「AWSアカウント管理」 > 「システム管理者」 > 「フィルタ」 > 「3.6 システム管理者のAWSアカウント情報登録」で登録した「システム管理者」のパラメータの「廃止」を押下
同様の手順で「3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録（3/3）」で登録した、「AWS管理者」のパラメータを廃止してください。

一覧/更新

更新		廃止		オペレーション					
		1		ホスト名	ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時
更新	廃止	1	exastro-it-automation	1	SampleOperation	2020/05/29 17:57	2020/05/28 11:00	2020/05/29 17:57	6

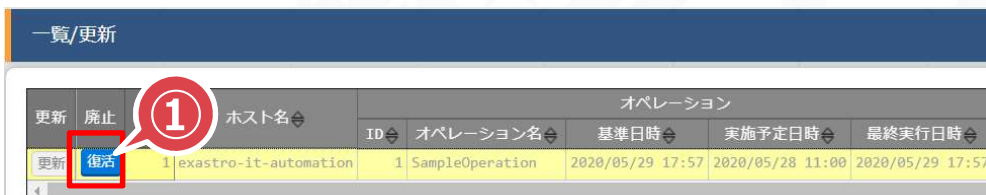
4.1 システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止と復活（2/2）

「システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止」の手順実行後、「システム管理者」「AWS管理者」でSymphonyを実行する必要がある場合、以下の手順を実施してください。

システム管理者&AWS管理者のパラメータ復活

※本項目の作業は「administrator（システム管理者）」で実施してください

- 「AWSアカウント管理」 > 「システム管理者」 > 表示フィルタの廃止欄で「廃止のみ」を選択 > 「フィルタ」前頁にて廃止した「システム管理者」のパラメータの「復活」を押下。
同様の手順で「AWS管理者」のパラメータを復活させてください。



The screenshot shows a web interface for managing parameters. At the top, there is a header bar with '一覧/更新' (List/Update). Below it, there is a table with columns for '更新' (Update), '廃止' (Delete), 'ホスト名' (Host Name), and 'オペレーション' (Operation). The 'オペレーション' column is further divided into 'ID', 'オペレーション名' (Operation Name), '基準日時' (Reference Date/Time), '実施予定日時' (Implementation Scheduled Date/Time), and '最終実行日時' (Final Execution Date/Time). A red box highlights the '復活' (Revive) button in the '更新' column of the first row, which is also circled with a red '1'.

更新	廃止	ホスト名	オペレーション				
			ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時
更新 復活		1 exastro-it-automation	1	SampleOperation	2020/05/29 17:57	2020/05/28 11:00	2020/05/29 17:57

4.2 Teams連携通知の登録（1/4）

Symphonyの実行結果をTeamsへ通知させたい場合は、本項目の手順を実行してください。

①TeamsのWebhookURLの準備

- 通知を受けたいチャンネルのWebhookURLを用意してください。

【参考】 WebhookURL取得の手順概要（Teamsにて実施）

- ①通知を受けたいチャンネルの右の「…」＞「コネクタ」を押下
- ②「Incoming Webhook」の「追加」もしくは「構成」を押下
- ③任意の名前を入力して「作成」を押下してWebhookURLを取得

4.2 Teams連携通知の登録（2/4）

②Teams連携管理の登録

- 「Teams連携管理」 > 「通知設定」 > 「登録」 > 「登録開始」
「ホスト名」「オペレーション」「通知先Webhook」を入力して「登録」を押下

No	ホスト名	オペレーション	パラメータ	備考
自動入力		オペレーション*	通知先Webhook*	

※*は必須項目です。

戻る 登録

POINT

- ホスト名 : 本ITA導入サーバのホスト名を選択
(デフォルトは" exastro-it-automation")
- オペレーション : 任意のオペレーションを選択
- 通知先Webhook : 「Teams連携通知の登録-Webhook準備」で用意した
WebhookURLを入力

4.2 Teams連携通知の登録 (3/4)

③Symphonyの編集

- 「基本コンソール」>「Symphonyクラス一覧」>「フィルタ」>Teamsへ通知させたいSymphonyの「詳細」>移動先画面下部の「編集」を押下

一覧			
廃止	SymphonyクラスID	詳細表示	Symphony名称
廃止	1	詳細	オートスケールWebサーバ (構築/更新)
廃止	2	詳細	オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行)
廃止	3	詳細	オートスケールWebサーバ (削除)
廃止	4	詳細	GuardDuty (構築/更新)
廃止	5	詳細	GuardDuty (削除)
廃止	6	詳細	AWS管理者ユーザー (構築/更新)
廃止	7	詳細	AWS管理者ユーザー (削除)
廃止	8	詳細	AWSインフラユーザー (構築/更新)
廃止	9	詳細	AWSインフラユーザー (削除)
廃止	10	詳細	【定期実行】機器一覧同期

Symphony編集

SymphonyクラスID 1 説明 オートスケールWebサーバを構築または更新を実行します。
AWS CloudFormationでスタックが未作成の場合、構築処理が実行されます。
スタックが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。

Symphonyクラス名称 オートスケールWebサーバ (構築/更新)

▼ start

1 テンプレ作成 / オートスケールWeb / 構築・更新 オペレーションID(個別指定)

2 CF実行 / オートスケールWeb / 構築・更新 オペレーションID(個別指定)

2

▲ end

編集 適用新規

4.2 Teams連携通知の登録 (4/4)

③Symphonyの編集

- 画面右側から「Teams通知 (Symphony名)」をドラッグ&ドロップでSymphonyの最後尾へ追加して「更新」を押下
※選択したSymphony名とTeams通知の () 内のSymphony名は合わせてください。

2 CF実行 / オートスケーリングWeb / 構築・更新
一時停止
オペレーションID(個別指定)

3 機器一覧を同期
一時停止
オペレーションID(個別指定)

4 Teams通知(オートスケーリングWeb)
一時停止
オペレーションID(個別指定)

▲ end

再読み込み 更新 キャンセル

1 Teams通知(AWSインフラユーザー)
CF実行 / オートスケーリングWeb / 削除
CF実行 / オートスケーリングWeb / 構築・更新
機器一覧を同期
イメージファイルをWebサーバへ設定
ローカルから秘密鍵を削除
秘密鍵をローカルへ展開
Teams通知(オートスケーリングWeb)
Teams通知(GuardDuty)
Teams通知(AWS管理者ユーザー)
プロキシサーバ取得

2 ドラッグ&ドロップ

4.3 メニューグループ／メニュー概要（1/5）

■ メニューグループ ※ITAデフォルトのメニューグループや参照用メニューグループは説明を省略。



メニューグループ名	説明
パラメータ管理	CSテンプレートのパラメータを登録・管理するメニューグループ
構築/更新シナリオ	CSテンプレートの構築/更新シナリオを登録・管理するメニューグループ
削除シナリオ	CSテンプレートの削除シナリオを登録・管理するメニューグループ
ドキュメント管理	設計、構築、評価のドキュメントを登録・管理するメニューグループ
AWSアカウント管理	AWSのアカウント情報を管理するメニューグループ
Teams連携管理	Teams通知連携の情報を管理するメニューグループ
マスタ管理	CSテンプレートのパラメータのマスタ情報を定義するメニューグループ
代入値管理	Movement「機器一覧同期」により登録され、Webサーバ構築のシナリオから参照される値を管理するメニューグループ。原則手動での変更は行わない

4.3 メニューグループ／メニュー概要（2/5）

パラメータ管理



メニュー名	説明
共通パラメータ	システム全体のパラメータを管理するメニュー
AWS管理者パラメータ	AWS管理者のパラメータを管理するメニュー
インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ	インフラ管理者/インフラユーザーのパラメータを管理するメニュー
AutoScaleパラメータ	AutoScaleスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
S3パラメータ	S3スタックで使用するパラメータを管理するメニュー
SNSパラメータ	SNSスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
CloudTrailパラメータ	CloudTrailスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
Networkパラメータ	Networkスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
SecurityGroupパラメータ	SecurityGroupスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
Bastionパラメータ	Bastionスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
VPCflowlogsパラメータ	VPCflowlogsスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
CloudWatchAlarmパラメータ	CloudWatchスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
GuardDutyパラメータ	GuardDutyスタックで使用するパラメータを管理するメニュー

4.3 メニューグループ／メニュー概要（3/5）

構築／更新シナリオ



メニュー名	説明
オートスケーलWebサーバ	オートスケーलWebサーバの構築/更新シナリオを管理するメニュー
GuardDuty	GuardDutyの構築/更新シナリオを管理するメニュー
AWS管理者	AWS管理者の構築/更新シナリオを管理するメニュー
インフラ管理者&インフラユーザー	インフラ管理者/インフラユーザーの構築/更新シナリオを管理するメニュー

削除シナリオ



メニュー名	説明
オートスケーलWebサーバ	オートスケーलWebサーバの削除シナリオを管理するメニュー
GuardDuty	GuardDutyの削除シナリオを管理するメニュー
AWS管理者	AWS管理者の削除シナリオを管理するメニュー
インフラ管理者&インフラユーザー	インフラ管理者/インフラユーザーの削除シナリオを管理するメニュー

4.3 メニューグループ／メニュー概要（4/5）

■ マスタ管理



メニュー	説明
スタック定義	スタック名・テンプレートファイルを定義するメニュー
AWSリージョン	構築するAWSリージョンを定義するメニュー
実行フラグ	実行フラグを定義するメニュー
共通パラメータ_環境	システム環境を定義するメニュー
インスタンスタイプ	構築するインスタンスのインスタンプタイプを定義するメニュー
EC2ブロックデバイス	ブロックデバイスのマッピングを定義するメニュー
ログ保管期間	ログの保管期間を定義するメニュー ※S3に格納されるログは自由入力のため対象外
リトライ回数	構築失敗時のリトライ回数を定義するメニュー

■ 代入値管理



メニュー	説明
Bastion	踏み台サーバをホストグループに登録するためのメニュー
WEB	WEBサーバをホストグループに登録するためのメニュー

4.3 メニューグループ／メニュー概要（5/5）

ドキュメント管理



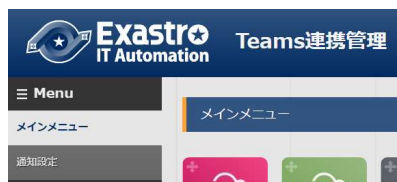
メニュー名	説明
基本設計	基本設計書を管理するメニュー
詳細設計	詳細設計書を管理するメニュー
構築資料	構築資料を管理するメニュー
評価資料	評価資料を管理するメニュー

AWSアカウント管理



メニュー名	説明
システム管理者	システム管理者のAWSアカウント情報を管理するメニュー
AWS管理者	AWS管理者のAWSアカウント情報を管理するメニュー
インフラ管理者	インフラ管理者のAWSアカウント情報を管理するメニュー
インフラユーザー	インフラユーザーのAWSアカウント情報を管理するメニュー

Teams連携管理



メニュー名	説明
通知設定	Teams通知設定を管理するメニュー

4.4 Symphonyの参照パラメータ(1/11)

■ Symphony「オートスケーलWebサーバ(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	項目名
1	オートスケーलWebサーバ (構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			AutoScaleパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			S3パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			SNSパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			CloudTrailパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			Networkパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			SecurityGroupパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			Bastionパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			VPCflowlogsパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			CloudWatchAlarmパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	オートスケールWebサーバ	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアカウント管理	インフラ管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
			ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_STARTUP」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」

4.4 Symphonyの参照パラメータ(2/11)

■ Symphony「オートスケールWebサーバ(構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
1	オートスケールWebサーバ (構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_AutoScale
				TPF_Security_KMS
				TPF_Storage_S3
				TPF_AppIntegration_SNS
				TPF_Management_CloudTrail
				TPF_Network
				TPF_SecurityGroup
				TPF_Bastion
				TPF_Management_VPCflowlog
				TPF_Management_CloudWatchAlarm

4.4 Symphonyの参照パラメータ(3/11)

■ Symphony「オートスケーलWebサーバ(EC2へPlaybook実行)」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	項目名
2	オートスケーलWebサーバ (EC2へPlaybook実行)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
			AutoScaleパラメータ	「キーペア名/Webサーバ」
			Bastionパラメータ	「KeyName」
		AWSアカウント管理	インフラユーザー	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
			ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_SECRET_KEY_BASTION」 「CPF_SECRET_KEY_WEB」 「CPF_IMAGEFILE」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」
		代入値管理	WEB	「項目」

4.4 Symphonyの参照パラメータ(4/11)

■ Symphony「オートスケールWebサーバ(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	項目名
3	オートスケールWebサーバ (削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	オートスケールWebサーバ	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアカウント管理	インフラ管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
			ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_STARTUP」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」

4.4 Symphonyの参照パラメータ(5/11)

- Symphony「GuardDuty(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	備考
4	GuardDuty(構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			GuardDutyパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	GuardDuty	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアカウント管理	インフラ管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

- Symphony「GuardDuty (構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
4	GuardDuty (構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_Security_GuardDuty

4.4 Symphonyの参照パラメータ(6/11)

■ Symphony「GuardDuty(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	備考
5	GuardDuty(削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	GuardDuty	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアカウント管理	インフラ管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

4.4 Symphonyの参照パラメータ(7/11)

- Symphony「AWS管理者(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	備考
6	AWS管理者(構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			AWS管理者パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	AWS管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアカウント管理	システム管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

- Symphony「AWS管理者(構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
6	AWS管理者(構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_AWS_AdminUser

4.4 Symphonyの参照パラメータ(8/11)

■ Symphony「AWS管理者(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	備考
7	AWS管理者(削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	AWS管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアカウント管理	システム管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

4.4 Symphonyの参照パラメータ(9/11)

- Symphony「インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	備考
8	インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	インフラ管理者&インフラユーザー	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアカウント管理	AWS管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

- Symphony「インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
8	インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_AWS_InfraUser

4.4 Symphonyの参照パラメータ(10/11)

■ Symphony「インフラ管理者&インフラユーザー(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	備考
9	インフラ管理者&インフラユーザー(削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	インフラ管理者&インフラユーザー	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアカウント管理	AWS管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

4.4 Symphonyの参照パラメータ(11/11)

■ Symphony 「【定期実行】機器一覧同期」で参照するパラメータは以下の通り。

Symphony クラスID	Symphony名称	メニューグループ名	メニュー名	項目名
11	【定期実行】機器一覧同期	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
			AutoScaleパラメータ	「キーペア名/Webサーバ」
			Bastionパラメータ	「KeyName」
		AWSアカウント管理	インフラユーザー	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
			ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_SECRET_KEY_BASTION」 「CPF_SECRET_KEY_WEB」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」
		代入値管理	WEB	「項目」

